

東北風景写真家協会会員向け会報「東風季報」第47号です。当会報は会の行事、活動計画、各種のお知らせ、撮影適所、撮影情報、撮影テクニックなどの記事を掲載しております。

東風季報

発行
東北風景写真家協会
〒980-0852 仙台市宮城野区榴岡3-8-15
東北カラーデューブ株式会社内
Tel 022-256-2141, Fax 022-256-2142
編集 阿部・丸山

小松ひとみ先生セミナー「色遣り」みちのく気まま旅

小松先生は大阪での風景写真100人展を終えて、仙台に直行、セミナーに臨んでいただいた。意味深長なタイトル「色遣り」に興味をわく。



阿仁の棚田

カメラが良くなつて押し寄せた時代だからこそ、写すときの心情を大切に、色の対比、光の流れに気づいてほしい。人知れず咲く桜にも、何通りもの見方があり、引き出しを多く用意しよう。自分のイメージで写真を作り上げていく。写真はマイナスとも言うが、足し算もおおあり、桜と新緑や春もみじの取り合わせも面白い。

自分ながらの「妄想」を練り広げながら、色と形そして光の組み合わせを演出する。材木岩の山桜、霞城公園の水面など何度も通い朝夕の光の変化をしつこく追求め、縦位置や横位置に、色崩れのないようにイメージを持って狙う。カレンダーとしてのみちのく風景を拝見。季節の移ろいの水中木、午前と午後では光がまったく違い、映り込み、そして影も異様に変わる。この出会いと待ちが色遣りに至る。阿仁の棚田では、水張り入るまでより生長から取り入れまでを見張りながら作品として追い込んでいく(下写真)。田代のヤナギランの群落は

光のアンケルや高さにより色合いが変わり、残照では別の花のように見え見える。アスペクト比を意識して画角を広く取り微妙な変化を表現したい。
デジタルでこそ
「フィルムならでは・・・」今までよく言われ、そう思い込んでいた。今やモード選択で、好みのフィルム調に仕上げるのは当たり前。デジタルだからこそ可能になったことも多く、日進月歩の世界である。例えば、解像度、カメラで写してびっくり、パソコンモニターに映して驚き、さらに大伸ばしに圧倒される。また、感度を上げて滝を写すと、岩のひだや水の動きが精密に表現される。霧氷のブナの森で、雪の結晶が見えるほどに写すこともできる。デジタルならではの雪の表現を工夫すると、自分の色に、音や風の気配も加味できるかもしれない。
身近なところで
自分の場所を見つけ感じることは、つまり人間力。豊かな経験をお持ちの方へのエールとしよう。(秋葉健一記)



【ご覧下さい】
ホームページ「たにしの楽校」の「楽校日誌」もご覧下さい。当協会の総会と小松ひとみ先生のセミナー模様が紹介されております。『www.tanishigakko.com/』

第13回定期総会報告

第13回定期総会を去る1月27日(日)仙台戦災復興記念館で開催しました。総会に先立ち今回は小松ひとみ先生をお招きして、スライド&トークセミナー「色遣り(いろいろ)」を開催いたしました。小松先生の撮影手法等参考にして頂き、これからの作品づくりにご活用頂ければ幸いです。(要約は上記に掲載)。

- ① 31年度事業報告
 - ② 30年度収支報告
 - ③ 会計監査報告
 - ④ 31年度事業計画案
 - ⑤ 31年度収支計画案
 - ⑥ 役員改選
 - ⑦ その他
- 以上の議事を討議し賛成多数により全て承認されました。
- なお、議事⑥の役員改選について吉田大作幹事より退任の申し出があり、新たに氏家芳雄氏が幹事に就任いたしました。続いて役員・幹事全員と会員の対面式がありました。その後懇親会場へ移動し、和やかに総会を終了しました。

冬の富士山撮影ツアー

東北風景写真家協会の、年間活動計画で予定しておりました2月の「冬の富士山撮影ツアー」につきましては、予定の参加人員に満たなかったため、今回はツアーを中止することになりました。お申込みいただきました皆様にお詫び申し上げます。また、新たな企画を推進して参りたいと考えております。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

「第15回太平洋写真学校北上教室」

東北風景写真家協会は、「第15回太平洋写真学校北上教室」に協賛し、無事終了しました。

2018年12月1日〜2日、石巻市北上町において全国から多くの写真愛好家が参加して開催されました。本協会会員も多数参加いたしました。東日本震災で甚大な被害を受けた葦原も見事に復活しています。葦刈り取り・夕日の葦原・翌早朝の素晴らしい日の出・法院神楽等の撮影・最後はセミナー受講と大満足でした。懇親会では、海の幸で盛りで食べきれないほどでした。

抽選会・うれしいおみやげも!

葦原撮影



2019年度 撮影実習セミナー参加者募集

春萌える鶴岡市田麦俣「たにしの楽校」を主会場に「撮影実習セミナー」を開催いたします。午前中楽校近辺で撮影、午後から講評。

(協賛：東北フォトウォーキングクラブ、たにしの楽校保存事務局)

日時：2019年5月12日(日)10:30~16:00

場所：鶴岡市田麦俣「たにしの楽校」と周辺の多層民家集落

参加費：8,800円(バス代、高速代、講座料、昼食代含む)

集合地：泉中央(7:30)仙台駅東口(8:10)・募集定員：24人

(旅行主催：河北新報トラベル 後援：荘内日報新聞社)

当日は「たにしの楽校」春の開講式イベントに参加し、地域の人や子どもたちと楽しい餅つきや伝統遊び音楽会なども撮影できます。

申込先：河北新報トラベルTEL022-211-6960

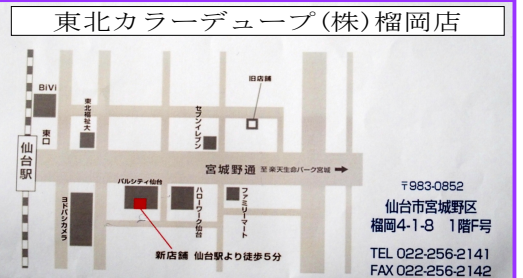
新事務局 オープンイベント

竹内正会長写真展「さくら紀行」開催
4月1日(月)~13日(土)
AM 9:00 ~ PM 6:00
4月6日(土)は休み
場所：東北カラーデューブ(株)榴岡店内



お知らせ 新幹事誕生です

「私の抱負」
会員の皆さんこんにちは、この度の定期総会で「幹事」に選任されました。氏家芳雄です。皆様方のご信任を受け就任したからには、ご期待に沿えるよう精一杯頑張ります。ついては、皆様方のご支援とご協力よろしくお願いたします。



★「東北風景写真家協会・事務局」が左記に移転します

〒980-0852 仙台市宮城野区榴岡
4-1-8 1階F号
TEL 022-256-2141
FAX 022-256-2142

★ご連絡下さい
写真コンテスト及び公募展に入賞または入選された方、また、個人やグループで写真展を開催される方も、ご連絡下さい。(敬称略)

★事務局移転のお知らせ

「東北風景写真家協会・事務局」が左記に移転します

〒980-0852 仙台市宮城野区榴岡
4-1-8
パルシティ仙台1階F号

移転先：東北カラーデューブ(株)榴岡店内
TEL 022-256-2141
FAX 022-256-2141

移転日：3月18日(月)

★仙台駅東口より徒歩5分と便利になりました。東北カラーデューブでは、プリント、現像、大伸ばし、展覧会、写真集、等写真に関する相談に応じます。

お知らせ

- ★写真コンテスト 上位入賞者
- ・第3回気仙沼・南三陸フォトコンテスト
- ・優秀賞 小倉山 裕行
- ・第9回おおきき観光写真コンテスト
- ・特別賞 跡部 義則
- ・2018宮城写真サロン
- ・入選 相原 智恵子
- ・入選 大滝 善嗣
- ★新入会員紹介
- ・安藤 フキ子

私の風景写真遍歴

青木 威世男



▼私は10代の頃より登山が好きで一人でよく山歩きをしていました。社会に出てから、仕事でそんな余裕はなくなりましたが、45歳頃よりスキーを始め、北アルプスの山々に登る機会がありました。

▼転勤で仙台に移り住み、独立した会社を立ち上げてからは、東北の山に登る時間的余裕はありませんでした。写真との出会いは、15年ほど前にコダック社の撮影会があり、その頃お付き合いがあったAZカメラ店よりバラの花を写す撮影会にと誘われました。

▼その頃、丸山先生はコダック社の社員で現場でお会いしました。その時の写真が、KODAK PHOTO CAPSULEに入賞しました。まだまだ仕事が忙しく写真を撮る暇がなく、3年後位に仕事を辞めた頃、又AZカメラ店から十和田方面への撮影会に誘われ参加しました。好きな山歩きができる事と運動不足解消目的であちこち歩き撮り始めました。

▼約7年前から竹内先生、丸山先生の御指導があり本気で撮影に取り組みようになりました。一人で出かける事が多くなったこの頃、少しでもいい撮影ポイントを求めて早朝2時・3時に自宅を出発し、山に・海岸に何度も立ち、藍色、黄色、ピンクと変わっていく色彩の変化や光の強弱の面白さに魅了されていきます。

▼四季を通して野山を歩き回り、近くの山々の日の出・高山植物・残雪・新緑・岩壁・原生林、その時その時の素晴らしい光景に出合った時、至福の刻を感じています。しかし無我夢中でシャッターを切り、期待してプリントしますががっかりする事が多いこの頃です。

▼82歳を迎え残りの人生が少ない今、先生方や東北風景写真家協会の皆様方との出会いに感謝し、楽しみながら少しでも『素晴らしい』と言われるような写真を撮りたいものです。

帰郷

自己主張

カメラの衝動買い

及川 剛司

◆昨年十二月、東風季報を家内に見せたところ「編集後記欄に、お父さんと丸山さんは連載と書いてあるよ」と言われました。

◆確かに十一月のセミナーにおいて、会報担当者より、「連載」という言葉を開いた記憶はありますが、あくまで冗談と思っただけです。私は、この店員は「判っていない」と判断、当初買う気は全く無かったのですが、「ムラムラ、ムラムラ」と「買いたい」と決めた後、店員にカメラ本体保証書と取扱説明書、本体の空箱、これらを紙袋に入れて頂き、レンズの取扱説明書と空箱は辞退しました。

◆この時の私の気持ちは、店員がミスに気がつく前に、兎にも角にも店のカメラの衝動買いについて、少し恥を掻こうと思っただけです。

◆衝動買いの一番の思い出は、ニコンSV（水中カメラ）を手に入れたことでしょうか。

◆購入したお店は名掛丁にあったウオッチマンです。この当時のカメラ販売はウインドウケースの中にカメラ本体とメーカー価格カードをカメラの脇に置いての対面販売でした。

◆このニコンSVは、レンズが別売の商品で価格カードはカメラ本体のみ表示になって居りました。

◆「買いたい」と決めた後、店員にカメラ本体保証書と取扱説明書、本体の空箱、これらを紙袋に入れて頂き、レンズの取扱説明書と空箱は辞退しました。

◆この衝動買いは一種の病気で自覚して居りますが、この病気は、私だけが、この症状ではなく、この季節を繰り返している方の中にも数多く存在していると思っ居ります。

◆この事は、自信を持って断言できます。

◆では新旧カメラを何処で見つけるかと言えば、大阪出張では梅田駅の中古屋さんに寄り、東京出張は、新宿、上野を巡り、基本的にはカテゴリーが家の財務大臣は、この時点で私を監視体制に入れます。

◆次にレンズ衝動買いの件をお話します。

◆生産打ち切りのレンズを店頭で見つける。

◆店員が、耳元でこの一本が最後ですと囁く。と、衝動買いの顔が私の心の中に「ニヨロニヨロ」と出て来るのです。

◆泉区にあるカメラ屋さんに見つけたこのレンズは、夕方には私の車の助手席に鎮座して居り、静かに家の中に入ってきた。

◆この危険エリアからの脱出方法は、このカメラの欠点箇所を探し出す事で、一瞬にて「恋」が冷めて行くので有ります。

◆衝動買いする人の気持ちは詳しく判りませんが、個々に症状は異なると思っ居ります。

◆今のは、最後の衝動買いから二年経過して居れば、完治すると信じたい。

◆デジタルカメラの衝動買いは一回だけで有りませんが、基本的にカテゴリーが家の財務大臣は、この時点で私を監視体制に入れます。

◆あなたはいくつ趣味を持っていますか？

◆聞かれたら指を何本折り曲げて数えますか？

◆「えーっと、1、2、3、4、、、」4本折れたらご立派です。

◆趣味と特技は違います。趣味は「自分の自己満足だから自分が一番楽しめること、そして失敗は当たり前でそれも楽しさのうちである」事です。

◆特技は誰にでもできる技術ではなく、人よりも秀でた技術のことで長い経験のなかで培われた失敗しない技術です。

◆写真は趣味のなかでもとても範囲が広く、被写体の多様性もまた、自然や歴史や生活、そして記録と変化に富んだ内容が感じられます。だからそれぞれ感じ方が違う写真が、それが写真に現れる。同じ写真が無事いことの面白さがそこにあります。

◆実は私も趣味を数えてみた。「写真は1番目」、「2番目は架空旅行」、「3番目は音楽活動」、「4番目は中古カメラ収集」

◆これらの趣味は昔からのものではなく、ある時あるきっかけで始まったものばかりです。だから特技では無いのです。

◆1番目は仕事柄その延長線上で始めたもの。2番目は一冊の時刻表の中で旅行を組み立てて空想のなかで動き回るもの（現在は休止中）。3番目は復活の趣味です。2年前に偶然、昔のフォークバンド演奏を思い起こし、ソロで自己満足ギター演奏を楽しんでいる。4番目は、ほぼ卒業したというか「一種の病気」のようなもので、昔とも高くて買えなかったカメラを次から次へと買い漁った時期があり、デジタルカメラになってから9割方処分し終息しつつあります。でも若干未練もあります。

◆実は今一番力を入れてるのは3番目の「音楽」です。50年前に使っていたクラシックギターをとりだし弦を張り替えて昔のフォークソングをメインに歌っています。

◆趣味で通っている歌のグループ発表会で弾いた3カ月に一回の定期演奏会に出演することになり、ついにはこのクラシックギターでは満足できず左のイラストのような「アコースティックギター」を買ってしまったのです。そして60年代、70年代の曲を思い起こして人前で演奏する機会も



ニコンSV（水中カメラ）



◆「こんな話、あんな話 第四十四話 「趣味を楽しむと、気持ち年齢が若返る」

◆あなたはいくつ趣味を持っていますか？

◆聞かれたら指を何本折り曲げて数えますか？

◆「えーっと、1、2、3、4、、、」4本折れたらご立派です。

◆趣味と特技は違います。趣味は「自分の自己満足だから自分が一番楽しめること、そして失敗は当たり前でそれも楽しさのうちである」事です。

◆特技は誰にでもできる技術ではなく、人よりも秀でた技術のことで長い経験のなかで培われた失敗しない技術です。

◆写真は趣味のなかでもとても範囲が広く、被写体の多様性もまた、自然や歴史や生活、そして記録と変化に富んだ内容が感じられます。だからそれぞれ感じ方が違う写真が、それが写真に現れる。同じ写真が無事いことの面白さがそこにあります。

◆実は私も趣味を数えてみた。「写真は1番目」、「2番目は架空旅行」、「3番目は音楽活動」、「4番目は中古カメラ収集」

◆これらの趣味は昔からのものではなく、ある時あるきっかけで始まったものばかりです。だから特技では無いのです。

◆1番目は仕事柄その延長線上で始めたもの。2番目は一冊の時刻表の中で旅行を組み立てて空想のなかで動き回るもの（現在は休止中）。3番目は復活の趣味です。2年前に偶然、昔のフォークバンド演奏を思い起こし、ソロで自己満足ギター演奏を楽しんでいる。4番目は、ほぼ卒業したというか「一種の病気」のようなもので、昔とも高くて買えなかったカメラを次から次へと買い漁った時期があり、デジタルカメラになってから9割方処分し終息しつつあります。でも若干未練もあります。

◆実は今一番力を入れてるのは3番目の「音楽」です。50年前に使っていたクラシックギターをとりだし弦を張り替えて昔のフォークソングをメインに歌っています。

◆趣味で通っている歌のグループ発表会で弾いた3カ月に一回の定期演奏会に出演することになり、ついにはこのクラシックギターでは満足できず左のイラストのような「アコースティックギター」を買ってしまったのです。そして60年代、70年代の曲を思い起こして人前で演奏する機会も

◆編集後記

◆一面の記事は協会の総会予定・小松ひとみ先生のセミナー・当協会総会開催の結果等について、また今後の活動計画等を掲載いたしました。

◆2面の記事は青木威世男さん・及川剛司さんに快くお引き受けいただきました。及川さんと丸山幹事長は連載です。

◆この季報は皆様のご投稿で作られています。

◆撮影ポイントのご紹介や撮影のテクニックなど、皆様のご投稿をお待ちしております。

できて、楽しんでいきます。

◆新しいデジタルカメラを買ってしまおう自分に呆れてしまいました。楽しい事を追求したらギターが勝ってしまいました。

◆でも写真はいろいろな分野の趣味とコラボレーションできると思っます。写真に言葉を添える、写真を音楽で演出する。映像に音楽は付きものですが、静止画の写真の奥から被写体に合った音楽が聞こえてきたら素敵だと思っませんか。今年はこのコラボを計画しています。

◆この2カ月の間で2回ほど小さなコンサートひとりライブをやりました。来場者の方からこんな感想をいただきました。「とても楽しかったです。でも一番楽しんでいたのは丸山さんだったと思っます。健康そう元気な丸山さんでした」と。これでまた味をしめてみたいな元気に巻き込みたい。

（二〇一九年三月 丸山慎一）